

「天使のはしご(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

夕方の西の空によく現れる「天使のはしご(光芒)」は、観察する位置や、時刻によって刻々と変化するのが面白い。光芒の形状は、雲の種類(特に雲の隙間や光の透過率)、太陽—雲—観察者の位置関係で決まる。



上の写真を撮った時、撮影した場所に太陽光は差し込んでいなかった。しかし遠くに雲の大きな隙間があって、そこから太い光芒が落ちていた。その着地点だけは太陽の光が差し込んでいたはずだ。



その逆の状態もある。上の写真では、明るい光芒の中に一塊の雲がある。周囲の光芒は明るい、真ん中にある雲で遮られ、放射状に影ができています。

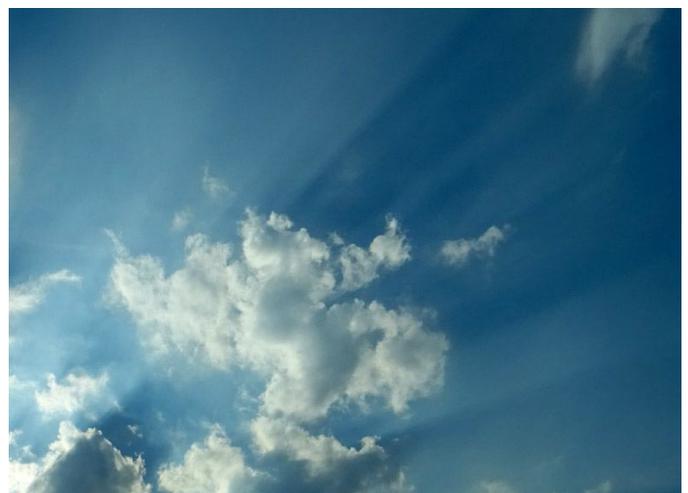
これらの光芒を観察したのは、上信越自動車道の甘楽PAである。私は車を停めて、1時間以上も光芒の観察を続けてしまった。変化が面白かったのだ。



太陽高度が下がって、太陽が雲の真ん中に入ると、実に劇的な変化を見せた。「天地創造」といった雰囲気と表現できそうだ。



小学生が太陽の絵を描くと、太陽(光球)の周囲に、放射状に線を描く者が多い。実際の太陽はそんなふうに見えないし、そもそも見るのは危険だ。しかしこの光芒は、まさしくあの子ども描く太陽のようだった。



光芒が地面の方向だけではなく、空に向かっても延びている。飛行機から見たら、さぞ荘厳な景観だろう。